

保育計画成果報告書

法人名等	学校法人ヴォーリズ学園
施設名	そらの鳥こども園
報告者（役職）	山崎 直（園長）
住所・連絡先	滋賀県東近江市種町 2120
	☎ 0748-43-6100
	E-mail soranotori@sweet.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

「わくわくたいむ」で チャレンジ！ からだづくり

○主な助成備品

雲梯（１・２歳児用、低年齢児用、幼児用）、ブランコ（１・２歳児用）

１．保育計画策定の目的

本園では「わくわくたいむ」と称して、月１回３～５歳児対象で専門講師による運動遊びを主に遊戯室にて実施しています。そして各クラスは毎回体験した運動を遊びや活動など日常の中に取り入れます。子どもたちは遊具を用いて楽しく遊ぶ体験を通して、自分の身体の思い切った動かし方を知り、多様な運動を可能とするための基礎を作ります。また本園では１～２歳児もリトミックや簡単な運動遊びを積極的に行い、園全体で「体を動かすことが楽しい！」と体感できる時間を大切にしています。

これまで運動遊びで使用していた遊具は主に屋内用の鉄棒、平均台やマットでした。例えば鉄棒では子どもたちが現段階の力に合わせることも、「もっと頑張りたい」との思いに合わせたりすることもできるように、チャレンジできる高さを複数用意し、ぶら下がる、くぐる、回るなど、単なる技術の習得ではなく、様々な体の動かし方を体験するための遊具として使用してきました。

この「わくわくたいむ」を起点とした園全体での体づくりの取り組みにより、子どもたちは身体を動かす活動をととても楽しめるようになっていっていると感じていました。そして「わくわくたいむ」で芽生えたチャレンジ精神を生かすために、遊戯室だけでなく、子どもたちがより一層のびのびと体を動かし、より多くの子ども同士で遊ぶことができる園庭にも遊具を設置したいと考えました。

2. 具体的な実施内容

雲梯の設置（１・２歳児用、低年齢児用、幼児用）

園庭に３種類の大きさの違う雲梯を設置して、年齢や体格にかかわらず意欲的に取り組める環境としました。１・２歳児用はすぐに遊びにいけるように、乳児クラスの保育室に近い場所に設置しました。また、低年齢児用、幼児用は２台を近い場所に設置し、体格の違いや異年齢での遊びの際も近い距離感で伝え合ったり、互いの姿を見せ合ったりできるようにしました。いずれの雲梯も移動が可能のため、活動内容によって配置を変更できることも利点のひとつです。



１・２歳児用



低年齢児用



幼児用

ブランコの設置（１・２歳児用）

１・２歳児が使用できるブランコも設置しました。公園から可動式の遊具は減っているなか、園に通う子どもたちはもちろんですが、子育て支援の広場に来てくださる３歳未満児の子どもたちにも体を動かす楽しさを味わえる環境を提供できると考えました。



3. その成果と評価

雲梯の設置時にはわくわくたいむの講師により、４・５歳児と職員が講習を受けました。ぶら下がり、たぐり渡り、体の揺らし方等、振り渡りに向けての基本動作について、重点的に指導を受けたため、雲梯の取り組みを楽しんでいくための基礎を知ることができました。

このように基本動作を経験してから雲梯の取り組みを深めていったため、多くの子どもたちが雲梯を好きになり、一人ひとりのペースに合わせて上達していくことができました。

設置から数か月の間で、高いところから低いところへ進む基本的な遊びだけでなく、低いところから高いところへ振り渡ったり、一段飛ばしで渡るなど、より難易度の高い動作に取り組む姿が多く見られました。

これにより、身体能力の向上やしなやかな身のこなしを身に着けたことはもちろんですが、子どもたち同士で教えあったり、互いの頑張る姿を見ることで刺激しあう姿が見られ、仲間と共に物事に意欲的に取り組むすばらしさを体感することができました。

また、雲梯は登降園時の通路沿いに設置しているため、子どもたちは降園時に保護者の方に新しくできるようになった技や振り渡りのスピードが増した姿を見てもらい、それをほめてもらうことでより深い満足感を得たり、自信につながっていったりする様子も多くみられました。

活動の様子



講師による説明



たぐり渡りや体揺らし



ぶら下がり



振り渡し



雲梯の上まで登ります



ブランコを楽しむ様子

4. 今後の課題と展望

今回の雲梯の導入で、園での運動遊びの取り組みを園内から園庭まで広げることができ、より豊かなものにすることができました。また、園庭遊具を設置することによって、子どもたちがいきいきと活動する姿を保護者の方に知っていただけるよいきっかけにもなりました。

特に雲梯についてはサイズの違うものを設置したことにより、幅広い年齢で使うことができたので、同年齢での刺激だけではなく、低年齢の子どもたちの大きいクラスの子どもたちへのあこがれにもつながりました。

今後、低年齢児から卒園までの長期間じっくりと取り組むことができれば、体づくりとともにチャレンジ精神や協同性など体と心の育ちにも大きな期待が持てると考えています。

以上